

島町防災士会ニュース

発行人：森 治雄
(島町防災士会 会長)
編集：野口和久
(島町防災士会事務局)

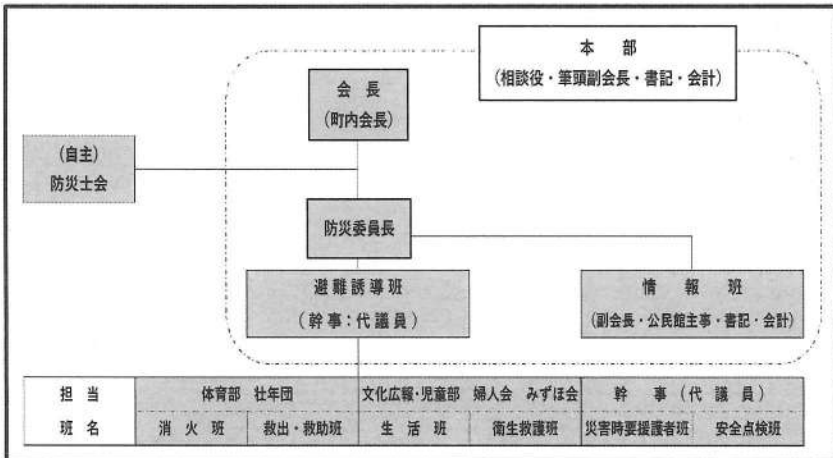
頻発する
大型台風・豪雪・地震・ゲリラ豪雨
わが町内の防災は万全か？

平成10年に組織化され発足した「島町自主防災会」。昨今の異常気象による大型災害、また町内の高齢化が進みつつある現在、町内防災組織の見直しが20年ぶりにおこなわれた。

町内の防災運営の組織である「島町自主防災会」は長年に渡り、防災訓練など継続的に活動を行ってきました。

役員と公民館役員と防災士会が三位一体となった新・島町自主防災会が完成しました。これからも、知識と経験を構築しながら、一人

しかし昨今、人口の高齢化や、全国各地で頻発する大型自然災害への対策が急務となっております。そこで昨年、森さんと新たに防災士講習の修了生を中心に「島町防災士会」が発足され、既存の組織をベースに現在の町内状況に見合う形で再編成を検討することとなりました。昨年一年間を準備の年(ゼロ年度)と銘打ち、試行錯誤を繰り返しながら、規約の改定・組織の名称変更や組み換えを議論してきました。そして令和元年の今年総会で承認を得て、町内



↑新・島町自主防災会の組織図。町内会長をトップに町内役員と公民館役員と防災士会が三位一体となった。



→ 強固な防災組織の構築のため、楽しく雑談を交えながら、熱い議論を交わす防災士会の皆さん



↑会議も和やかに進めてくれる森会長(左)と今藤副会長(右)

でも多くの方々に防災意識を高めて頂き、防災士の修了生を輩出する町作りを目指します。そして防災への自助公助の精神が、日常のご近所のコミュニケーションにもつながり、町内活動も活性化されより良い町作りにも貢献する期待も高まっております。

試行錯誤の防災訓練

昨年の防災訓練は2018年6月24日に実施されました。避難訓練集合後は「災害図上訓練(DIG)」を実施し、4班に分かれ、自身の地域の避難ルートや危険な箇所などを再確認をしました。これにより、第一避難所が非効率で実用的ではないことも確認されました。



↑熱中症を気遣うほどの晴天でしたが、熱心に地図を見ながら討論出来ました。(2018年6月24日 南部公民館にて)

新組織となった、令和元年の今年、5月20日に実施。避難訓練後は、防災知識と意識向上のため、

見えてきた今後の課題

2度の防災訓練を通じて、今後参加率の向上への工夫が必要です。また、避難所の機能性の問題も浮き彫りとなりました。

【春日町との協力問題】

島町と春日町の両町の避難場所である南部中学校体育館。両町住人が大挙した場合の、協力体制

次のブースを設け、説明・体験をしました。【←警戒レベルと避難時の注意点の説明】



↑高野・谷本両防災士の熱弁に、説明の終了後は拍手も巻き起こりました(笑)

【←避難所生活のミニ体験】



↑避難所生活の疑似体験、お子さんも興味津々。木谷防災士の発案で後日、簡易トイレの注文も回覧板で受けました。

【←防災グッズの展示】



↑多種多様な防災グッズを手に取り必要性を実感しました

【←消火器の使用説明】



↑消火器の使用説明。また後日、期限切れの回収と販売も行いました。

【←AEDと胸骨圧迫の体験】



↑代議員さんも事前講習を実施しました。中川・北口両防災士のサポートで多くの方が体験出来ました。

実施後のアンケート結果では、94%の参加者が「来年も参加したい」「ご近所にも参加を促したい」とご回答頂きました。また、参加率が低いや、説明が聞き取り辛いなどのご意見は今後の課題として改善してまいります。

ながら、改善案を練ってまいります。

【←備蓄品の数量問題】

避難所の、食糧・日用品の備蓄量は、住民の20〜25%の一食分のみという算定で決められています。避難所へは、ご自身で日用品や食糧を持込む必要があります。

これからの課題を解決しながら、より安心な防災環境を整備します。